

G X 経済移行債発行に関する 関係府省連絡会議（第 2 回）資料

令和 5 年 8 月

G X 推進法等を活用した我が国のG X 実現に向けた取組

- 我が国は、「G X 実現に向けた基本方針」及び関連2法の成立によって、「成長志向型カーボンプライシング構想」等を具体化。以下の新たな施策を大胆に講じていくことが可能に。令和5年7月に閣議決定された「G X 推進戦略」を実行していく。

従来の政策による課題

G X 基本方針により可能となる新たな政策イニシアティブ

1 中長期支援による予見性確保

- ✓ 原則単年度の措置であることから、翌年度以降の政策動向が見通せず、中長期の投資判断を要するG X 投資が停滞

- ✓ 中長期のG X 投資を行う企業の予見可能性を高める新たな投資促進策
 - 20兆円規模のG X 経済移行債を活用した、国による複数年度のコミットに基づく投資促進策
 - 主要分野における今後10年の「道行き」を踏まえた施策の実行
 - 初期投資のみならず、生産量に応じた投資促進インセンティブの検討

2 トランジション・ファイナンスの拡大

- ✓ トランジション・ファイナンスは、アジアを含む世界の脱炭素化のために不可欠だが、活用は限定的

- ✓ 世界で前例のない、国によるトランジション・ボンド（G X 経済移行債）の発行
⇒ 国内外の民間によるトランジション・ファイナンスを一層拡大

3 リスク許容度の高いファイナンス手法の確立

- ✓ 一定の収益確保を前提とした既存の政策手法では、G X 投資に係るリスク補完の観点から一定の限界

- ✓ 不確実性の高いG X 投資を促進するための、リスク許容度の高い新たなファイナンス手法
 - G X 推進機構※の債務保証等によるプレネット・ファイナンス
※ 官民の叡智を結集した組織設計の検討
 - G X 経済移行債を財源とした新たな出資、メザニン・ファイナンス等も検討

4 カーボンプライシング

- ✓ カーボンプライシングに係る議論が長年継続

- ✓ 企業がG X に取り組む期間を設け、徐々に引き上げていく方針を明確にした上で成長志向型カーボンプライシングを決定
2023年度:GXリーグ開始 → 2026年度:排出量取引制度（ETS）本格稼働 →
→ 2028年度:化石燃料賦課金導入 → 2033年度:ETSにおける有償オークション導入
⇒ 早期にG X に取り組むインセンティブを創出

5 グローバルなルール形成への参画・立案

- ✓ 欧州主導のタクソミー形成等が中心

- ✓ G7 広島サミットで、G X、2050年ネット・ゼロに向けた多様な道筋、トランジション・ファイナンスなど、我が国が先行して取り組むルール・コンセプトの重要性を初めて確認。
- ✓ アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）を中心に、アジアのG X に向けた国際連携を主導
- ✓ G7 の成果に基づき、「削減貢献量」の評価ルールや、I E A との連携による、グリーン鉄等に係るデータ収集・評価手法等の整備を主導

世界の動向を踏まえ、施策の詳細設計・早期実行、機動的かつ柔軟な追加方策の検討が必要

G X 経済移行債を活用した投資促進策の基本原則

- 20兆円規模の投資促進策については、「GX 実現に向けた基本方針」において、以下の要件が定められており、これを踏まえて、施策を実行していく。
- 加えて、投資支援策の内容は、**G X 経済移行債のフレームワークに基づく国際認証・レポート**が必要になることや、**分野・財ごとの分析に基づく「勝ち筋」を具体化**することも踏まえて、検討していくことが重要。

【基本条件】

- I. 資金調達手法を含め、企業が経営革新にコミットすることを大前提として、技術の革新性や事業の性質等により、**民間企業のみでは投資判断が真に困難な事業を対象とすること**
- II. **産業競争力強化・経済成長及び排出削減のいずれの実現にも貢献**するものであり、その市場規模・削減規模の大きさや、GX達成に不可欠な国内供給の必要性等を総合的に勘案して優先順位を付け、**当該優先順位の高いものから支援すること**
- III. 企業投資・需要側の行動を変えていく仕組みにつながる規制・制度面の措置と一体的に講ずること
- IV. **国内の人的・物的投資拡大につながるもの***を対象とし、海外に閉じる設備投資など国内排出削減に効かない事業や、クレジットなど目標達成にしか効果が無い事業は、**支援対象外とすること**

※資源循環や、内需のみの市場など、国内経済での価値の循環を促す投資も含む

【類型】

産業競争力強化・経済成長

A **技術革新性**または**事業革新性**があり、外需獲得や内需拡大を見据えた成長投資

or

B 高度な技術で、**化石原燃料・エネルギーの削減**と**収益性向上**
(**統合・再編やマークアップ等**) の 双方に資する成長投資

or

C **全国規模**の市場が想定される**主要物品の導入初期の国内需要対策** (供給側の投資も伴うもの)

排出削減

① 技術革新を通じて、将来の**国内の削減**に貢献する**研究開発投資**

or

② 技術的に削減効果が高く、**直接的に国内の排出削減**に資する**設備投資等**

or

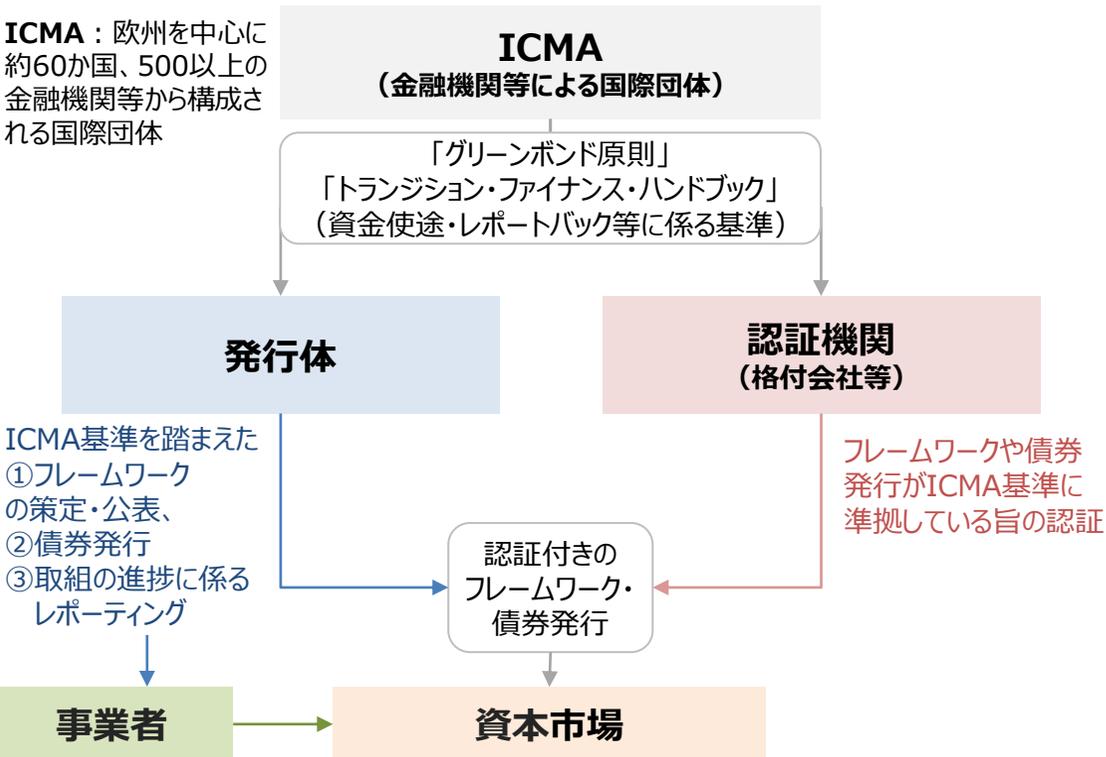
③ **全国規模で需要**があり、高い削減効果が長期に及ぶ**主要物品の導入初期の国内需要対策**



G X 経済移行債の発行によるトランジション・ファイナンスの拡大

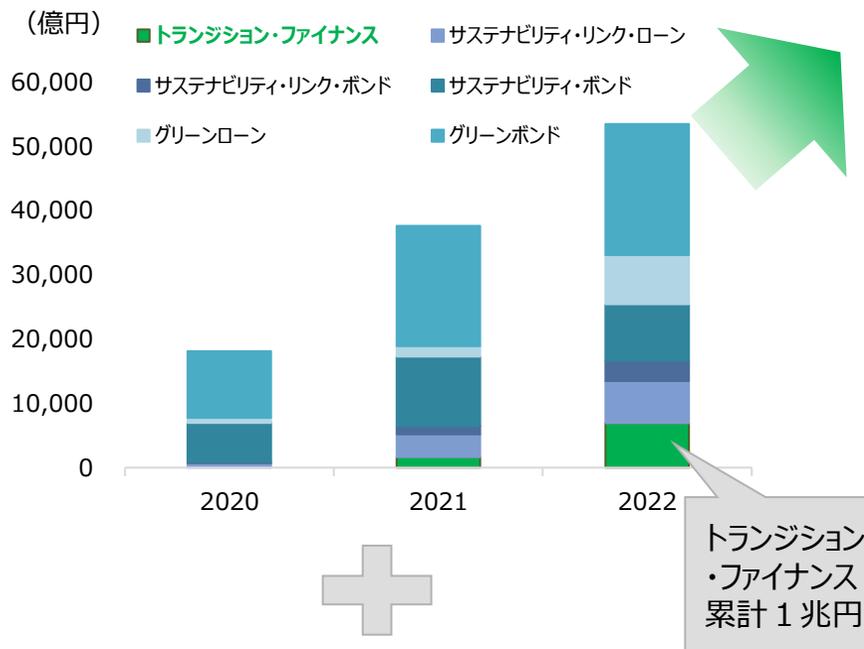
- G X 経済移行債（今年度分の発行限度額として約1.6兆円を予算に計上）については、統合発行に限らず、国際基準に準拠し、**国際認証を取得した上で今年度から発行すべく、関係府省連絡会議を中心に、検討を加速。**
- G X 経済移行債の発行により、脱炭素と経済成長・産業競争力強化の同時実現に資する民間投資を強力に後押しし、今後10年で150兆円を超えるG X 投資を実現していく。さらに、トランジション・ファイナンスへの注目が集まる中、我が国が、**世界で前例のない、国によるトランジション・ボンド（G X 経済移行債）を発行し、国内外の民間によるトランジション・ファイナンスを一層拡大していくことが期待される。**

トランジション・ボンドに係る資本市場との関わり



GX経済移行債による政府支援を受けるに当たり、GXへの挑戦をコミット

トランジション・ファイナンスの拡大



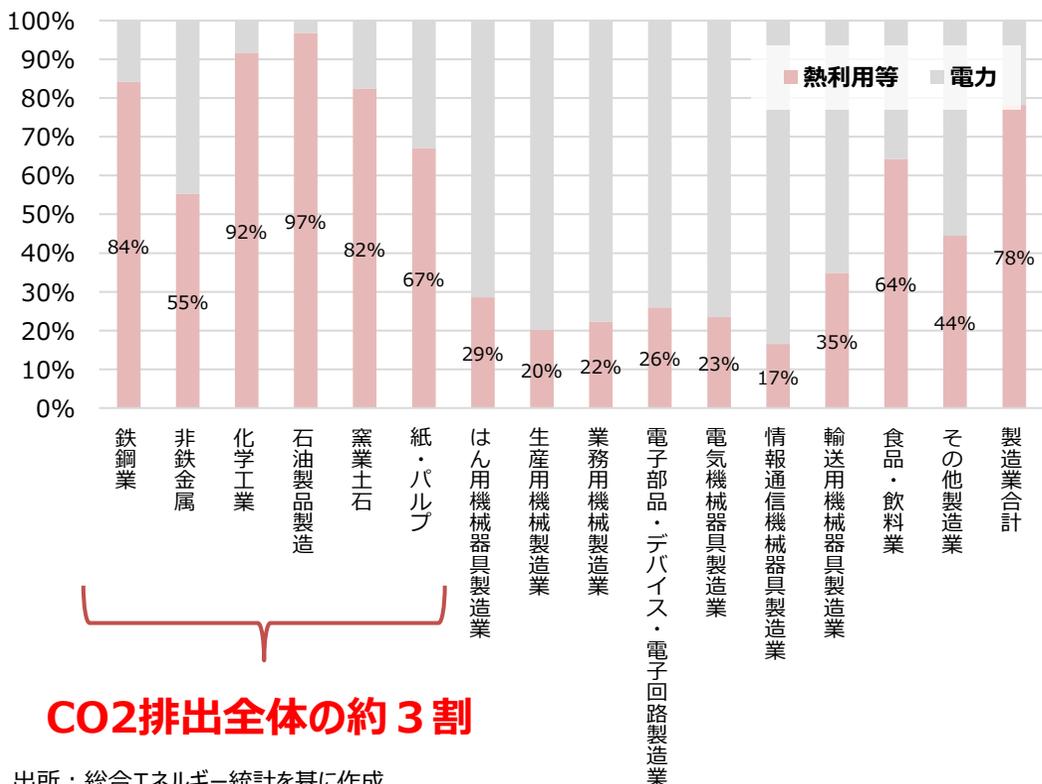
アジアでは、**2050年までに累計40兆ドルとも言われる脱炭素投資の資金需要**

出所：金融機関、各社公表情報を基に作成。

世界の脱炭素化に向けた「トランジション」の重要性

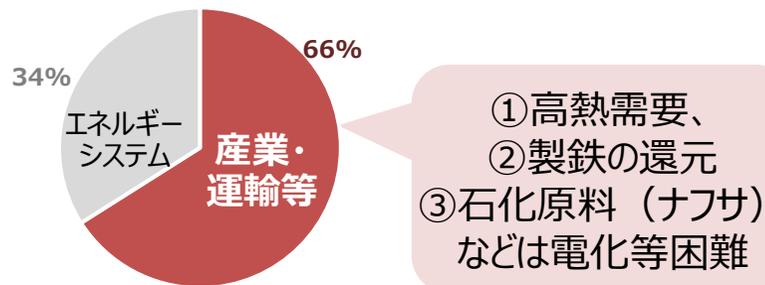
- GXの実現に向けては、**電化+電源の非化石化**が重要。加えて、我が国のCO2排出の約3割を占める素材産業は、エネルギー使用量に占める**熱利用向けの比率（熱需要比率）**が高い水準にあり、世界規模で見てもこうした産業部門の排出削減が重要であることから、**熱需要等の脱炭素化**も極めて重要。
- 他方、そのためには**新技術が必要**であり、実際の削減に至るまでに**長い期間と膨大なコスト**を要するため、**優先的に取り組むことが重要**。従って、再エネ・電化など現に排出ゼロ・低排出な取組を対象とした「グリーンファイナンス」だけでなく、製鉄業における**水素還元製鉄技術**をはじめ、**現在は多排出だが新技術開発等により段階的な排出削減を進める取組**も対象とする「トランジション・ファイナンス」が重要。

エネルギー使用量に占める熱利用向け比率（日本）

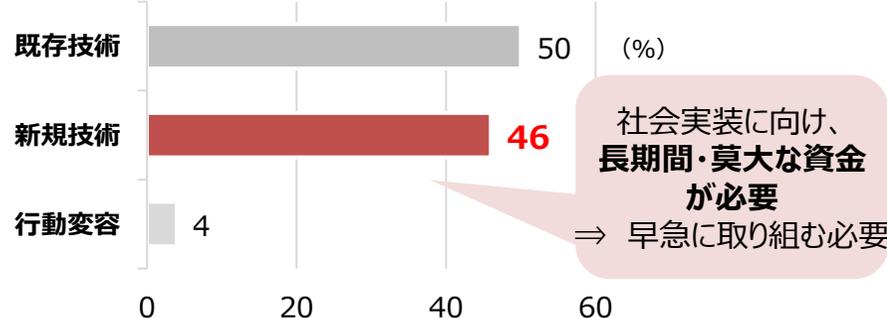


世界の脱炭素化に向けた新技術の必要性

<世界のセクター別CO2排出量>



<世界がCNに至るまでのCO2削減要因の割合>



トランジション・ファイナンスに対する国際理解の醸成

- 海外でも、トランジション・ファイナンスに対する注目が集まり、G 7 広島サミットでは、G 7として初めて、トランジション・ファイナンスの重要性について確認された。
- また、例えばブラックロック（資産運用会社）会長兼CEOラリー・フィンク氏は、投資家に向けた年次書簡において、**トランジション・ファイナンスの重要性を強調**。国・産業によって脱炭素に向けた移行速度は異なるとした上で、着実な移行に向けた**トランジション・ファイナンスは最も魅力的な投資機会の一つと指摘**。

【2023 G 7 広島サミット成果文書 抄】

We also highlight that transition finance, in line with keeping a limit of 1.5°C temperature rise within reach, avoiding carbon lock-ins and based on effective emissions reduction, has a significant role in advancing the decarbonization of the economy as a whole.

【ブラックロックの年次書簡 抄】

- 我々は、**移行が一直線に進むわけではない**ことを知っている。**国や産業によって移行速度は異なり**、石油・ガスはその過程で世界のエネルギー需要を満たすために重要な役割を果たすことになるだろう。
- 我々のクライアントの多くは、既存のエネルギー企業が事業を適応させることで生まれる投資機会に注目している。また、エネルギー安全保障とエネルギー転換を成功させるために、エネルギー会社が果たすべき重要な役割を認識している。
- 今後数年間、**最も魅力的な投資機会のいくつかは、トランジション・ファイナンスの分野**である。

第6回GX実行会議における議論

- 第6回GX実行会議において岸田内閣総理大臣より、GX経済移行債の国際認証取得、及びアジアのトランジションへの貢献について発言。

【第6回GX実行会議（令和5年6月27日） 岸田総理発言】

我が国も、今回のGX推進法によって、主要国との政策競争に伍していける基盤ができました。今後は、我が国の強みを生かして、この政策競争の中で日本の強みを生かし、一歩も二歩も先行する具体的な政策展開を図ります。

例えば、アジア各国の経済成長と脱炭素の両立を図るトランジション・ファイナンス。広島サミットでの合意も踏まえ、我が国のGX経済移行債に対して国際認証を得る準備が進んでいます。世界に例のないトランジション・ボンドを政府が発行し、民間のトランジション・ファイナンスにつなげる。2050年までに40兆ドルの脱炭素投資の資金需要があると言われるアジアでのトランジション投資に貢献していきます。